

2018 年度第 2 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2018 年(平成 30 年)5 月 13 日(木)13:30-16:30
場所	大阪大学東京ブランチ日本橋サイエンスビルディング 9 階 会議室 912 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目3番11号
出席者	(順不同、敬称略)理事長:祖父江友孝 理事:栗山進一、玉腰暁子、曾根博仁、井上茂、井上真奈美、尾島俊之、 若井建志、本庄かおり、安田誠史、金子聰、郡山千早、片野田耕太、田中純子、 中山健夫、松尾恵太郎、三浦克之 監事:西信雄、横山徹爾 委任状出席者:小橋元、近藤克則、岡村智教 第 28 回学術総会会長:安村誠司 学会事務局:喜多村祐里、西野雅子、中川光穂

理事会に先立ち、祖父江理事長より、出席者・委任状提出者を含めて理事・監事全員の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

1. 2018 年度第 1 回一般社団法人日本疫学会理事会/第 2 回社員総会議事録(案)は承認された。
2. 将来構想検討委員会報告書(案)について、玉腰理事(元将来構想検討委員会委員長)より説明があり承認された。
3. 副理事長の選定(案)について、一般社団法人日本疫学会定款第 4 章「役員等」第 21 条の 2「理事長及び副理事長は、理事会の決議によって選定する」に基づき、玉腰理事、三浦理事を副理事長に選定することが承認された。
4. 定款施行細則の変更(案)について、祖父江理事長より説明があり、広報委員会の構成員に理事・代議員以外も含まれる可能性があることから広報委員会に関する第 3 条の一部文言の削除、「倫理問題検討委員会に関する細則」の全文削除、および「倫理審査委員会に関する細則」の全文削除の変更案は承認された。西監事より、現時点で委員会の廃止手続きについて定めたものがないという指摘あり、討議の結果、細則の変更と解釈できるので理事会の承認をもって決議となった。このほか疫学研究支援委員会は廃止となるが、これまで行ってきたような個人研究の支援は続けて行けるような仕組みや体制の整備は必要であり、疫学専門家の育成事業をはじめ、会員構成の把握に努め、対外的には疫学を軸とする研究活動の連携などを積極的に進める方針を確認した。尚、廃止のタイミングについて

ては、ニュースレター等で会員へ周知された時点で実質的な廃止となることが承認された。

5. 委員会構成（案）について、祖父江理事長より説明があり、承認された。
6. 委員会活動計画（案）について、各委員会の委員長より説明があり、討議の上、承認された。各委員会について討議の概要および承認事項について以下に記す。
 - 1) 疫学データ利用促進委員会（仮称）について、委任状出席の岡村委員長に代わって栗山理事より説明があった。倫理問題検討ワーキンググループ（以下、WG）、リンケージ基盤推進WG、および既存疫学研究データ・資料の資源化と共有・活用の促進WGの3つのWGの活動計画が提示され、承認された。祖父江理事長より「疫学データ」との名称に違和感があるという意見が提示され、公的統計、既存情報、生体試料など包括的な意味で、「試料・情報」または「疫学リソース」が適当であるが、「試料・情報」は公的統計など含まれない感じがするといった意見もあり、「疫学リソース」の方が未来的で響きも良いとして、承認されたが、最終決定は岡村委員長に判断を委ねることとなった。また、祖父江理事長から厚労省の担当官とも連携しながら積極的に進める必要があるとの意見があった。
 - 2) 学会等連携推進委員会（含：禁煙推進学術ネットワーク連絡WG）の活動予定について、曾根委員長より説明があった。将来の「疫学学術連合（仮称）」の設置を視野に入れた外向きの活動、具体的には「禁煙推進学術ネットワーク」をはじめ、関連分野の他学会、関係諸団体との連携を強化、推進し、共催セミナー・シンポジウム、PR事業などを通じて本学会のプレゼンスを高める活動計画が提示された。片野田理事より、現在、約30の加盟学会を有する「禁煙推進学術ネットワーク」における活動内容について説明があり、会費（1口10万円）の免除特例の適用についても交渉中である旨の報告があった。祖父江理事長より、他の学会との連携においては、内部の人材（会員）の活躍を促進するためにもダイバーシティ促進委員会と協働での活動も期待したいとの意見があった。他学会との共催セミナーについて、曾根委員長より補足説明があり、現時点では学術総会会長の裁量で行われるもの以外で、どちらかという外部からのニーズに対して疫学会から出前で行うようなものが想定される。また、逆に外部からの依頼を受けて学術総会に盛り込む企画については、できるだけ早めに提案すべきとの意見があった。片野田理事より、禁煙推進学術ネットワークを通じた署名活動等については、これまで事務局と理事長辺りで決めてきた事も多かったという経緯があるが、今後も従前通り進めることで合意した。

- 3) 多様性（ダイバーシティ）促進委員会について、田中委員長より説明があった。多様な会員が活躍可能な環境を整えるためのソフト・ハード両面の支援が必要と考えるが、学生理事に関する考え方や役員・会員の構成比等についての議論がどの程度為されてきたのかといった課題が挙げられ、当面、シンポジウムの座長の男女の構成比を設定するなどの取り組みはあまりされていない現状を鑑みて、まずはダイバーシティ促進委員会で会員登録票の改訂を行い、会員構成というものを多様性の観点から把握した上で、必要な支援や会員ニーズに応じて行けるような取り組みを行うことで合意した。編集委員会の方で進めている ORCID 登録が本格化すれば、その情報を活用するという手もあるといったコメントがあった。学術総会開催時の保育所の設置・運営を委員会が主体となって行うべきかどうか質問があったが、従前通りの（学術総会会長に委ねる）方針で特に問題はないという判断で合意した。
- 4) 広報委員会について、中山委員長より従来活動であるニュースレターの発刊（年 2 回）、一般向けコーナー（用語集、スライドコンテスト等）の充実、ホームページアクセス解析などについて報告があり、さらに疫学リテラシー普及促進 WG、メディア連携 WG を通じて将来構想委員会報告書に則った活動について、各ワーキンググループ長の安田理事および金子理事より説明があり、承認された。
- 5) JE 編集委員会について、松尾委員長より現行の取り組みについて報告があった。なお、早期公開についてはまだ改善の余地を残しており、今後さらに大幅な期間短縮が見込まれること、さらにインパクトファクターの維持・向上のため理事・代議員などに論文引用をお願いしたいこと、さらに ORCID の普及・活用に向けて積極的に取り組んでいきたいといった方針について説明があり、その一つとして、第一著者への登録義務化を 2017 年 8 月より開始したことなどについて説明があった。また、現在の編集方針は、将来構想検討委員会報告書の基本目標に沿ったものであるとの説明があり、承認された。
- 6) 国際化推進委員会について、井上委員長より、毎年業務として定着しているトラベルグラント選考に加え、日韓セミナー、IEA 西太平洋地域会議、日台セミナー、WCE2020 中の日韓台ジョイントセミナーなどを企画中であることの説明があり、承認された。今後、IEA での活動における国家間の問題等で理事会討議が必要な場合もあると思うとの報告があった。学会ウェブサイトの完全 2 カ国語化については、現状会員サイトの部分の英語化が進んでいないことの課題が挙げられた。
- 7) 疫学専門家認定・養成委員会（仮称）について、尾島委員長より説明があり、学術/疫学教育推進 WG の名称については「学術」の言葉の意味が広く担当する内容が分かりにくいいため「疫学教育推進 WG」と改め、疫学専門家認定・養成委員会に

については3つのWGを包含する名称として「疫学専門家・人材育成委員会」と改める案が提示され、承認された。

- 8) COI委員会について、郡山委員長より説明があり、承認された。
 - 9) 選挙規定検討委員会について、郡山委員長より説明があり、承認された。
 - 10) 総務委員会について、喜多村委員長より説明があり、承認された。
7. その他の協議事項について、祖父江理事長より説明があり、日本医師会医学賞・奨励賞候補推薦および日本医学会総会2019奨励賞候補推薦は理事長および副理事長で選考を行うこと、第3回理事会は、2018年10月26日（金）の午後（時間未定）に公衆衛生学会学術総会開催場所となる「ビッグパレットふくしま」で開催することなどが承認された。

<報告事項>

1. 学会事務局活動について、年間スケジュールに沿って、喜多村事務局長より説明があった。1月から4月までの入会・退会者数：入会：54人、退会：16人、再入会：1人、役員変更定款登記（本人確認書類・就任承諾書収集、社員総会・理事会議事録）、税務署・金融機関・社会保険・学術振興会等に代表者変更届の提出、疫学会通信・JE目次・メルマガ等のメールによる配信、会計処理、補助職員の採用（2/9）：中川光穂さん、退職（3/22）：滝田由紀さん、理事長と打ち合わせ（2/9）/西野、理事長と理事との個別ヒアリングのためのWebEX会議開催（2/13～3/2）、監事面談（3/20）/祖父江理事長、西監事、横山監事、西野、理事長ミーティング（3/9, 3/16, 4/10, 4/13, 5/1）、遠山椿吉賞（辻一郎先生、富岡公子先生）授賞式（2/15）に祝電送付、委員会等の活動補助、広報活動、第2回理事会開催準備、および関連団体への対応等について報告があった。

関連団体への対応は以下の通り：

- 日本医学会・日本医学会連合
 - ・ 医学会連合連絡協議会（2/23）井上真奈美先生出席
 - ・ 医学会定例評議委員会・医学会連合臨時総会・医学会連合社会部会意見交換会（2/28）井上真奈美先生出席
 - ・ 「領域横断的な肥満症対策の推進に向けたワーキンググループ」会議（3/16）磯博康先生出席
 - ・ 第4回研究倫理教育研修会（5/8）松尾恵太郎先生出席
 - ・ 分科会一覧の更新情報送付
 - ・ ゲノム編集技術を用いた医学研究に関する質問票・理事長回答（2/19）
 - ・ 医学会総会2019中部「分科会特別展示」パネル展示申込（3/23）

- ・平成 29 年度日本医学会新規加盟学会：日本再生医療学会
- 社会医学系専門医協会 専門医・指導医認定委員会 (4/7) 井上茂先生出席
 - ・2017 年度実施分
 - K 単位 (講習会受講 2 単位) 1. 日本疫学会サマーセミナー (8/26、4 時間)、
 - 2. 疫学セミナー (2018/2/1、2 時間)
 - G 単位 (研究協議会等の参加 1 単位 (ただし鍵となる学会の場合 2 単位))
 - 1. 第 28 回日本疫学会学術総会 (2018/2/2-3)
 - ・2018 年度実施予定分
 - K 単位 (講習会受講 2 単位) 1. 日本疫学会サマーセミナー (未定、半日)、
 - 2. 疫学セミナー (2019/1/30、半日)
 - G 単位 (研究協議会等の参加 1 単位 (ただし鍵となる学会の場合 2 単位))
 - 1. 第 29 回日本疫学会学術総会 (2019/1/31-2/1)
 - 専門医・指導医の更新に係る単位に関する調査依頼 (締切期日 5/31)
 - アンケート調査回答 (CMC 学会資料センター、日経メディカルオンライン、医学書院、医歯薬出版(株)、NTT データ経済研究所「人工知能活用調査」)

2. 代議員のブロック移動について、喜多村事務局長より以下の通り報告があった。

- ・内藤真理子先生：中部⇒中国・四国
- ・澤田亨先生：東京⇒関東甲信越
- ・平田匠先生：東京⇒北海道・東北
- ・鶴川重和先生：北海道・東北⇒近畿
- ・菊谷昌浩先生：北海道・東北⇒東京

() 内定数に対して、代議員数が不足となった東京と中部で一人ずつ補充

北海道・東北(20名)：20名

関東甲信越(31名)：32名

東京(42名)：41名

中部(26名)：25名

近畿(29名)：31名

中国・四国(11名)：12名

九州・沖縄(15名)：15名

(ア) 東京ブロック：須賀万智先生 (東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座) を繰り上げ補充 (5/1)

(イ) 中部ブロック：上村真由先生 (名古屋大学大学院医学系研究科 国際保健医療学・公衆衛生学) を繰り上げ補充 (5/1)

3. 庶務報告について、喜多村事務局長より以下の通り報告があった。

1) 会員数 (2018年5月1日現在)
名誉会員：29名、代議員：176名、普通会員：1,994名 (合計：2,199名)
※普通会員のうち2018年度会費無料学生会員：29名

2) 年会費納入状況 (2018年5月1日現在)
2018年度会費の納入義務のある会員：2,141名
2018年度までの会費納入完了者：1,367名、63.8%)
2年以上の滞納者：33名

4. 第28回日本疫学会学術総会の収支決算書および会務報告書について、安村誠司学術総会会長より報告があった。報告の概要は以下の通り。

参加者数

● 学術総会：667名 (招待12名含む)

会員：425名 (事前285名、当日140名)、非会員98名 (事前26名、当日72名)、
学生110名 (事前63名、当日47名)、海外一般4名 (事前3名、当日1名)、海外
学生8名 (事前5名、当日3名)、順天堂大学学生実習10名、招待12名

● 疫学セミナー：160名

● 懇親会：178名

一般演題申込

● 一般演題登録数：口演57題、ポスター201題 (計258題)

(うち一般演題取り下げ：9題 (口演4題、ポスター5題))

寄付・企業展示等(1,220,000円)

- 寄付 2社(公益財団法人福島県労働保健センター、公益財団法人福島県保健衛生協会)
- 広告 3社(ライトストーン、大修館書店、シミックホールディングス、南山堂)
- 企業展示 7社(ライトストーン、日本疫学会禁煙推進学術ネットワーク連絡委員会、国立研究開発法人国立環境研究所、ジャパンデザイン、福島県立医科大学健康増進センター、滋賀医科大学、ESRI ジャパン)

助成金(1,740,000円)

- 福島県コンベンション開催支援事業補助金(1,090,000円)
- 福島市コンベンション開催補助金(500,000円)
- 福島県立医科大学主催学会負担金(150,000円)

収支決算(詳細は別紙参照)

収入(A)	11,456,628円
支出(B)	10,645,159円
差額(A)-(B)	811,469円

5. 第29回日本疫学会学術総会準備状況について、津金昌一郎学術総会会長の代理として井上理事より報告があった。開催概要は以下の通り。

会期会場：

2019年1月30日（水）：国立がん研究センター築地キャンパス（東京都中央区）

2019年1月31日（木）・2月1日（金）：一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）

懇親会 2019年1月31日（木）如水会館スターホール

会長：津金昌一郎（国立がん研究センター社会と健康研究センター センター長）

プログラム委員長：井上真奈美（国立がん研究センター社会と健康研究センター 予防研究部長）

事務局長：岩崎基（国立がん研究センター社会と健康研究センター 疫学研究部長）

現時点におけるプログラム案：

1. 基調講演：Prof. Loic Le Marchand (University of Hawaii Cancer Center)

2. メインシンポジウム：因果推論の限界への挑戦

3. 企画セッション：

- 曝露測定の限界への挑戦（栄養疫学、運動疫学、バイオマーカーなど）
- 新しいアウトカムへの挑戦（フレイル、多疾患共存、認知症など）
- 記述疫学の限界への挑戦（生存率算出法、ビッグデータ・データリンケージ、社会経済指標など）
- リスク予測への挑戦（がん、循環器、糖尿病など）

4. 疫学セミナー：未定

以上